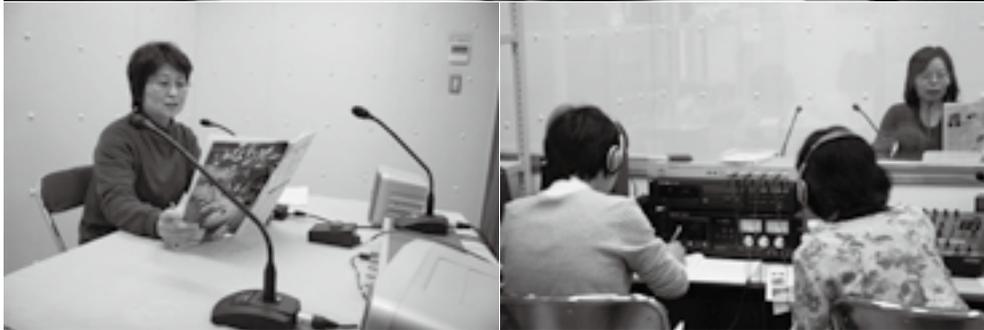


朗読グループ
さくら草

カセットテープに 思いを吹き込む



上：1日号担当の皆さん。和気あいあいとした雰囲気だ
右：ガラスを隔てて指示が飛ぶ
左：録音室内はピンと張り詰めた空気に

「こんにちは、お元気ですか…」

毎月1日と15日に届くカセットテープは、優しい語り掛けで始まる。作成主は朗読グループさくら草。視覚障がいを持つ人のために、広報なりの朗読テープ「声の広報」を作成しているサークルだ。いかに聴き取りやすい朗読をするか、工夫を凝らし地道な活動を続けている。

ひたむきな取り組み

さくら草の立ち上げは、昭和61年にさかのぼる。以来20年以上に渡り、朗読活動を続けている。

活動の中心は、「声の広報」の制作だ。広報なりだが1カ月に2号、議会だよりが3カ月に1号作られるため、その都度録音室にこもり切りになって録音作業にieshimu。聴きやすい朗読をと、月に1度の朗読勉強会も欠かさない。

さくら草の実力は折り紙付きだ。福祉広報コンクールでも、県知事賞を始め、県社会福祉協議会会長賞などを受賞して

いる。

ほかに、年に1度、朗読の「自主制作テープ」を作成している。「いつも声の広報を聴いてくださりありがとう」との思いから、リスナーとテープを通して交流しようと思った。1つのテーマを決めることもあれば持ち時間の範囲内で各自が好きなテーマで朗読することもある。今年には自由に朗読するパターンで、滝沢馬琴と南総里見八犬伝の話で始まっている。

声の広報を必要とする人へ

「声の広報」制作の流れはこうだ。20



希望者へ広報紙発行日に合わせて「声の広報」が届く

感謝の気持ちでいっぱい



声の広報リスナー
青柳房子さん(加良部)

市の職員の勧めで、「声の広報」を知りました。とても分かりやすく、助かっています。もっと早く出会いたかったと思うくらいですね。さくら草は、ほかにも定期的に自主制作テープを作っていて、そちらもとても楽しめます。次回のテープを心待ちにしています。さくら草の皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

生活の一部になったさくら草



さくら草代表
飯田紀子さん(酒々井町)

使命感なんて大層なものではありませんが、「声の広報」を必要とする人のためにという気持ちが、活動を続ける原動力になっているのだと思います。しかも、地道に継続することは自分たちを成長させてくれる。勉強させてもらっているという感覚なんです。今では、さくら草の活動が生活の一部になっています。何でも言い合える仲間たちと意見交換しながら「声の広報」を制作することに、やりがいと喜びを感じています。

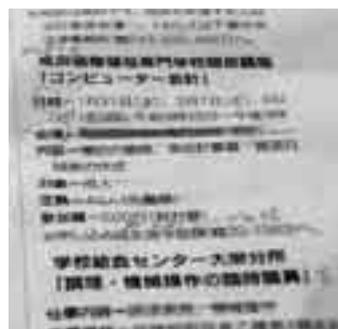
人の会員が、1月号と15日号の2つのグループに分かれ、作業を進める。

- ① 広報課や議会事務局からゲラを取り寄せる
- ② 制作方針の打ち合わせ
- ③ 録音本番まで自宅で下読み
- ④ 録音
- ⑤ マスターテープを県立図書館へ送付し、ダビング・発送を依頼する

さくら草は、「声の広報」を広報紙の発行日に間に合わせたいとの思いから、年間計画を立て、各号の録音日などを管理。ゲラとは校正完了前の試し刷りをいうのだが、いち早くこれを入手し作業に取り掛かっている。

変えたりする必要があるからだ。各自下読みをしながら、修正部分に鉛筆で印を付けていく。録音当日、自信を持って臨むためにも、この作業は欠かせないという。また、音の場合、活字のように漢字から意味を理解するということができないため、読み仮名の正確性がとても重要になる。誤りがあれば、意味を誤解してしまうし、誤解したことに気付くことも難しいからだ。

一番難しいのは、②の制作方針の決定だという。「声の広報」は1号90分であるため、広報紙の文章すべてを収録することはとてもできない。そのため、どうして



朗読時の注意事項がびっしりと書き込まれたゲラ

も文章を削らざるを得ないのだ。設立当初からのメンバーである渡辺幸子さん(玉造)はこう語る。

「本当は、読み手であるわたしたちが、読む部分・読まない部分を選定してはいけないと思うんです。本来選ぶべきなのは、情報を受け取る側のリスナーなんです。だからこそ、リスナーとの交流会などを通じて意見交換をし、何を知りたいがっているのか、どんな表現が分かりやすいのかを日々探究しています」

本紙が読者に届くころ——さくら草の思いが吹き込まれた「声の広報」が、リスナーに届く。

“声”で写真を鑑賞 ▶

「声の広報」では、写真を“声”で味わうことができます。例えば2月1日号の表紙写真はこうなっています。

「写真は、冷凍状態のマグロの白い巨体がページいっぱいに並んでいます。どれも輪切りにした尾の部分が載せられています。手かぎ棒を持ち、その赤い尾肉を品定めするようにのぞき込む仲買人。初競りと書かれた色とりどりの小さなほりが華やかな、にぎわいある写真です」

